

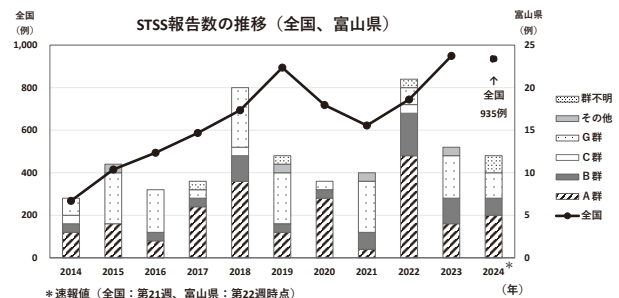
“人食いバクテリア” 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)について

細菌部 池田 佳歩

レンサ球菌は球状の菌が連鎖状に並んでいる細菌です。血液寒天培地で培養するとコロニーの周りに血液成分が分解されて緑色や透明な環が形成されることから、溶血性レンサ球菌（溶レン菌）と呼ばれます。抗原性の違いから、AからV群（I, J群は除く）まで分類されています。一般的には急性咽頭炎などを起こす細菌ですが、稀に引き起こされる重篤な疾患として、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）が知られています。

STSSは通常無菌的な部位（血液、筋肉など）に溶レン菌が侵入することで引き起こされる感染症です。STSSの主要な原因菌はA、B、C、G群の溶レン菌です。主にA群として*Streptococcus pyogenes*、B群として*Streptococcus agalactiae*、C群・G群として*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE) という菌が分類されています。このようにSTSSは主に3種類の異なる溶レン菌感染症であり、ショック症状を伴う病気の総称（症候群）です。患者年齢は40歳以上の成人に多く、60歳以上が70%以上を占めています。STSSは5類全数把握疾患であり、小児科定点把握疾患であるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、その重症度が大きく異なります。初期症状としては、発熱や悪寒などの症状、四肢の疼痛や腫脹、創部の発赤などがみられます。発病から症状の進行が急激で、軟部組織壊死や多臓器不全等を引き起こします。ショック状態に陥り、患者の死亡する割合が高い感染症です。このような特徴から「人食いバクテリア」とも呼ばれています。

全国のSTSS患者報告数は、2019年をピークに2021年まで減少傾向でした（図：折れ線）。しかしながら2022年以降再び増加に転じ、2023年は949例と1999年に統計を始めて以降最多となりました。2024年に入っても第21週時点で既に935例と昨年同時期（334例）の2倍以上のペースで報告されています（図：折れ線）。2023年夏以降、50歳未満のA群の溶レン菌によるSTSS患者報告数、



届出時点の死亡割合の増加が報告されています。

富山県におけるSTSS患者報告数は、近年7-21例/年で推移しており、2024年は第22週時点で12例の報告がありました（図：縦棒）。過去10年（2014-2023年）のSTSSの原因菌は、A群溶レン菌（主に*S. pyogenes*）が42%と最も多く、次いでG群（主にSDSE）が34%、B群（*S. agalactiae*）が15%と、多く分離されています。

本疾患の菌侵入部位としては創傷部位、上気道等がありますが、菌侵入部位不明例が全症例の約半数に及びます。

本疾患は、突然発症し進行が速いため、早期の診断と治療が重要です。創部の痛みがあり、発熱等の感染の兆候がみられる場合には、速やかに医療機関を受診し適切な治療を受けましょう。

<参考>

- ・国立感染症研究所HP
劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/341-stss.html>
国内における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加について
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/group-a-streptococcus-m/2656-cepr/12594-stss-2023-2024.html>
- ・病原微生物検出情報IASR 2024年2月号vol.45 29-31
- ・厚生労働省HP 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html
- ・厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）分担研究報告書「我が国の劇症型溶血性レンサ球菌感染症の疫学」
https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2016/162111/201617010A_upload/201617010A0006.pdf

増加する木の実類アレルギーについて

近年、木の実類を原因とした食物アレルギーが増加しています。消費者庁がおおむね3年ごとに公表している「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書」において、平成24年度では木の実類を原因とした食物アレルギーは全体の2%でした。しかし、令和3年度では13.5%を占めており、鶏卵、牛乳に次いで3番目に症例数の多い原因食物となっています（「落花生（ピーナッツ）」は木の実類ではなく豆類に分類されます）。木の実類の内訳では「くるみ」が多く、「カシューナッツ」、「マカダミアナッツ」、「アーモンド」と続きます（図1）。木の実類アレルギー増加の背景にある要因の一つとして、「くるみ」や「カシューナッツ」などの国内消費量の増加が考えられています。

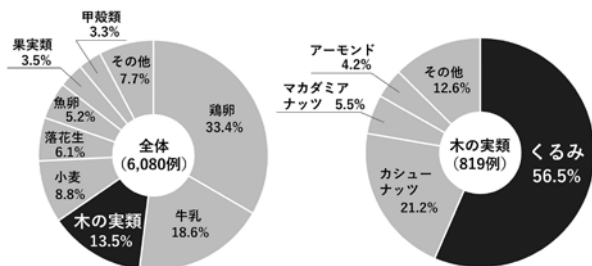


図1 アレルギー原因食物および木の実類の内訳 (令和3年度)
出典：令和3年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書から作成

食物アレルギーとは、特定のタンパク質などを含む食品を摂取した際、それを異物と認識して過敏に反応してしまい、体にとって不利益な症状を引き起こされる現象をいいます。一般的な症状としては、かゆみ・じんましん、下痢・嘔吐、せき・ぜん息などがあり、ときには意識障害や血圧低下などを伴う重篤な症状（アナフィラキシー症状）を呈することがあります。食物アレルギーの根本的な治療法はまだなく、原因食物を摂取しないことが重要です。そのため、食物アレルギー患者に正確な情報を提供し、食物アレルギーによる健康危害を未然に防ぐことを目的とするアレルギー表示制度が定められています。この制度では、特に症例数が多く重篤な症状をもたらす食物は「特定原材料」に指定され、容器包装された食

表1 特定原材料等の表示対象品目 (令和6年4月時点)

根拠規定	特定原材料等の名称	表示
食品表示基準 (特定原材料)	えび、かに、くるみ、小麦、そば、卵、乳、落花生 (8品目)	義務
消費者庁 次長通知 (特定原材料に 準ずるもの)	アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、マカダミアナッツ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン (20品目)	推奨 (任意)

品に含まれる場合、その名称の表示が義務付けられています。また、症例数が比較的多く、表示が推奨される食物は「特定原材料に準ずるもの」に指定されています（表1）。最近、木の実類に関する表示基準の改正が相次いでいます。令和元年9月には「アーモンド」が、令和6年3月には「マカダミアナッツ」が「特定原材料に準ずるもの」に追加されました。さらに、令和5年3月には「くるみ」が「特定原材料に準ずるもの」から「特定原材料」に引き上げられました。「くるみ」については、表示の義務化に伴う容器包装の更新にかかる猶予期間として、令和7年3月31日まで経過措置が設けられていますが、可能な限り速やかに表示を行うことが望まれています。また、「カシューナッツ」についても、令和3年度の調査では「くるみ」に次ぐ症例数であり、今後の「特定原材料」への引き上げが検討されています。

当所では、県内で製造された加工食品について、「特定原材料」の表示が適正に行われているか確認するための検査を実施しています。現在、「くるみ」の「特定原材料」への引き上げに伴い、新たに「くるみ」の確認検査法の整備を進めているところです。今後も万全の検査体制を整え、皆さまの食の安全の確保に努めてまいります。

(化学部 有沢 拓也)

(参考)

消費者庁「食物アレルギー表示に関する情報」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_sanitation/allergy/

蚊に刺されて感染症にかかる？！

暑い夏の季節が近づいてきました。夏は、蚊に刺される機会が増える季節でもあります。蚊に刺されると腫れてかゆくなりますが、刺されたときに感染症にかかってしまうこともあることをご存じでしょうか？さらに、蚊の種類によって媒介する感染症も異なります。例えば、ヒトスジシマカ(図1A)はデング熱の他、ジカ熱、チクングニア熱などを媒介します。一方、コガタアカイエカ(図1B)は、日本脳炎を媒介します。これらの感染症は、ウイルスを持つ蚊に刺されたとしても必ず発症するわけではなく、発症しない不顕性感染事例も多く見られます。

○デング熱：デング熱は、発症すると発熱、発疹、頭痛などの症状を示し、まれに重症化してショック症状となることもあります。現在国内では、年間数百例のデング熱の報告がありますが、いずれも海外で蚊に刺されることで感染し、帰国後に発症した輸入症例です。しかし、過去には輸入症例に端を発する国内発生例があり、特に2014年に代々木公園を中心としたデング熱の大規模流行が起き、最終的に162例が報告される事態となりました¹⁾。現在国内で認可されたデング熱のワクチンはなく、治療は対症療法のみとなります。新型コロナウイルス感染症の患者が減少し海外との行き来が徐々に増えるにつれ、輸入症例数もパンデミック前に戻りつつあります。流行地域である東南アジア、中南米、アフリカ等から帰国後に症状が出た場合は注意が必要です。

○日本脳炎：日本脳炎は、発症すると意識障害や麻痺等の神経系の障害が認められ、時に死に至ることや重篤な後遺症を残すことがあります。日本脳炎の予防にはワクチンが有効なため、現在日本では、幼少期に不活化ワクチンの定期接種が行われています。国内で大きな流行はないものの年間数例の発生があります。ウイルス部では、毎年様々な年代の人の血液を集めて、日本脳炎の抗体

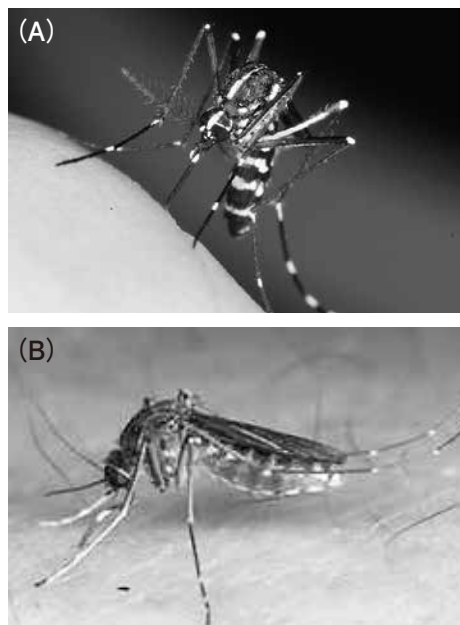


図1 (A)ヒトスジシマカ、(B)コガタアカイエカ
(引用：国立感染症研究所、感染症予防接種ナビ)

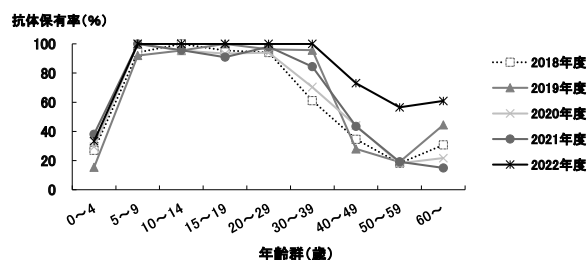


図2 日本脳炎の抗体保有率 (2018～2022年度)

を持っている人がどのくらいの割合で存在しているかの調査も行っています(図2)。免疫の低い高齢者やワクチン接種前の幼児はコガタアカイエカに刺されないように注意が必要です。

デング熱と日本脳炎は、現在国内では散发例のみで大きな流行は起きていません。過度に恐れる必要はありませんが、蚊に刺されて感染症にかかることもあると覚えておきましょう。

(ウイルス部 矢澤 俊輔)

(参考文献)

- 1) 国立感染症研究所. 2015. IASR Vol. 36, No.3 (No.421)

富山県衛生研究所健康危機対処計画(感染症)を策定しました

新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがある感染症の発生及びまん延に備えるため、令和4年12月に地域保健法が改正されました。地方衛生研究所は、健康危機管理体制の中核機関として法律上の位置づけが明確化されるとともに、平時から健康危機に備えた準備を計画的に進めるため、健康危機対処計画の策定が求められました。

なお、令和5年3月に、厚生労働省から「健康危機対処計画(感染症)策定ガイドライン」が通知されたため、当所では、当該ガイドラインに沿った感染症危機に関する健康危機対処計画を策定することとしました。策定にあたっては、本庁、厚生センター・保健所、医療機関、県外の有識者等をメンバーとする検討委員会を設置して内容を検討しました。

令和6年2月に策定しました「健康危機対処計画(感染症)」の概要(記載項目)は次のとおりです。

【富山衛研健康危機対処計画(感染症)の概要】

- I はじめに
健康危機対処計画策定の経緯 等
- II 平時における準備
「関係機関との連携」、「検査実施体制の確保」、「情報の収集と提供」 等
- III 発生段階に応じた対応
「国内外で新たな感染症が発生」、「流行初期」、「流行初期以降」、「流行小康期」における対応
- IV 感染防御策、業務継続計画の作成
- V 感染症危機発生後の対応(事後評価)

今後は、上記計画に基づき、次のパンデミック等に備えた準備を進めるとともに、本県において感染症危機が発生した際には速やかに有事体制に移行する等の体制整備を行い、感染症のまん延防止に努めてまいります。

(研究企画部 新保 孝治)

令和6年度「夏休み子ども科学研究室」のご案内

テ マ : 衛生研究所で遊ぼう! 学ぼう! ウイルス・細菌・化学おもしろ実験体験ツアー
内 容 : 炎色反応、pH測定、顕微鏡観察、手洗い確認、その他(詳細は下記申し込み)
日時場所 : 令和6年7月27日(土) 13:30~17:00(最終受付16:30) 富山県衛生研究所にて
対 象 : 小学生(おもに中~高学年向け) 受講料無料。一部人数制限あり。
申込方法 : <https://shinsei.pref.toyama.lg.jp/BsaFO0vY> もしくは二次元コードから。
留意事項 : なるべく事前申し込みをお願いします。(当日受付も可)
詳細は申し込みフォームでご確認ください。
※問合せ: 0766-56-8142(金谷)



衛研だよりのアンケートにご協力ください

このアンケートは衛研だよりの閲覧状況、満足度、ニーズの把握をするためのものです。回答にかかる時間は2~3分です。なお、回答内容から個人が特定されることはありません。
<https://shinsei.pref.toyama.lg.jp/uVl8qvq8> もしくは二次元コードからご回答をお願いします。



受彰のお知らせ

健名 智子 (化学部 上席専門員)

永年にわたり飲料水、食品等の試験検査業務に従事し、県内の理化学検査機関の検査員への技術指導、食品添加物等の分析法の研究開発に尽力し、簡便で高感度な分析法を開発するなど公衆衛生の向上に貢献した業績により、令和6年2月20日に厚生労働大臣表彰(公衆衛生事業功労者)を受けました。

堀井 裕子 (化学部 部長)

イタイイタイ病患者発生地域住民の健康調査、食品中の残留農薬や自然毒、有害物質の検査及びその方法の開発に取り組み、公衆衛生の向上に貢献した業績により、令和6年2月20日に一般財団法人日本公衆衛生協会会長表彰(公衆衛生事業功労者)を受けました。

衛生研究所のホームページは <https://www.pref.toyama.jp/1279/kurashi/kenkou/kenkou/1279/>

又は、富山県のホームページからもアクセスできます。

【(<https://www.pref.toyama.jp>) → 組織から探す → 厚生部 → 衛生研究所】



衛生研究所内の富山県感染症情報センターでは、毎週水曜日に前週の感染症発生動向調査の速報値(週報)をHPで公表しております。

富山県感染症情報センター <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>

